

ぜん ぎょう じ
善巧寺報

6 月号



月刊◎善巧寺報

〒344-0032 埼玉県春日部市備後東4丁目1番17号
TEL 048(734)7660 榎本明覚

▼二〇二四年六月一日▲



『東海道五拾三次』 水口 名物干瓢。

干瓢づくりは初夏の風物詩。飛脚が上着を脱いでいる様からも季節を感じることが出来ます。

東京教区の名品・特産品

～ 栃木南組 かんぴょう ～

定例法座

毎月
十一日

◎六月十一日(火)午後二時〜

三時半

於 法輪会館

「三人称の死・一人称の死」

「死」は誰にでも必ず訪れるものですが、平安時代は死穢(しえ)、**「けがれ」**として自分の身の回りから出来るだけ遠ざけようとはからわれていました。それは現代においても**「辛気臭い」**と言つて死を遠ざけようとする事象などに依然色濃く残っています。

東大名誉教授でクリスチャンの村上陽一郎先生は、人は常**に**他者との関わりあいの中**に**いるが、今だかつて経験したことが無い他者との断絶に直面し、たった一人で引き受けなければならなくなる**こと**、それが**「死」**であると言います。逆を言えば**「死」**に戸惑いや恐怖を感じる

という事は、他者との関係性の中でしか生きられない人間である**こと**の証明とも言われます。

私たちは身近な方が亡くなったり、テレビやドラマで描かれる人が亡くなったりするシーンを観て**「死」**についての体験をしますが、それは三人称の立場で観た**「死」**であつて、自分自身がこれから必ず体験する**「死」**にとつて何の役にも立たないと**言**われます。忙しい時トイレに行きたくなつても**「ちよつと代わり**に行つておいて」と他者に依頼する事が出来ないように、**「死」**もまた誰も代わつてくれる者はいません。社会的存在でありながら絶対的孤独を内包している存在**「私」**を正面から見据えたのが、お釈迦さまでありその気風を引き継いだ仏教の先達方でありました。

『大無量寿経』にはすでに**「独生独死 独去独来」**とあります。

独り生まれ独り死に、全く独りで相対していかねばならない、故に、一人一人が常に平穩で乱れることなき強靱な心をもたねばならない、そのために常に心を鍛え修行を重ねていかねばならないわけです。しかし現実の私は、孤独に耐えられず常に他者に依存し、他者との関係性に**惑**い悩み、悟りの道への歩みは覚束ないどころかスタートラインにさえ立てていないと言わねばならないでしょう、そうした者を捨てられないと立ち上がったのが阿弥陀仏であると『大無量寿経』には説かれるのです。

「阿弥陀」とは限定しないという意です。つまりたとえ私が、臨終を迎える夕べに如何なる心持ちであるうとも、必ず仏の智慧と慈悲に満ち溢れた浄土に往生させ、晴れて仏と成す**こと**なのです。絶対的孤独の中で死にゆく私に、捨てはしないぞ、と

呼びかけ続ける仏の真心が「南無阿弥陀仏」であつたのです。

この私が仏に成るに定まる時は不定の未来ではなく今この時、すなわち現在であるので、これを「現生正定聚」(この娑婆で今、正しく仏と成るに定まつたともがら)と言われます。妙好人浅原才市さんはそのことを、

わたしは臨終済んで

葬式済んで

浄土にころ住ませてもらて

南無阿弥陀仏と浮世に居るよ

と詠まれたのでした。

みほとけ会月例会

○対面での法話会・仏教講義を再開しました。今年は九月七日

(土)、十一月七日(土)、代官山

寺カフェを会場に行います。

いずれも午後六時〜七、八、十、

十二月はNOONを用いたりモー

ト法話会となります。

NOON法話会開催日時は、

毎月第一木曜日、第三木曜日

午後八時開始・九時半終了

参加ご希望の方は、

jefidget@gmail.com

まで、メール送信下さい。

魁！仏教塾

宗派を問わず大乘仏教の構造を理解したい方のための講座(理解できるまでの徹底指導！(笑)です。「阿含・空・唯識・華嚴・密教」全五回を終了しましたが、補講もごさいます。ご興味おありの方は是非ご参加を。

次回、六月二十九日(土)

テーマ「縁起・空・無我」を理解する

午後一時開講〜三時まで

途中、おやつ休憩入ります

場所 善巧寺法輪会館

会費 五〇〇円

(精進おやつ・資料代)

※補講含め計五回参加された方にはもれなく記念品を贈呈させて頂きま

◆◆春日部だより◆◆

◎去る五月十九日(日)、皆さまのお陰により総永代経法要を無事円成いたしました。尊いご懇念、お心遣いを運んで下さった皆様、境内整備や仏具おみがき等にご協力下さった皆様に厚く御礼申し上げます。

